



HPS Japan
Hospital Play Specialist

ニュースレター

News Letter

<https://hps-japan.net/>

HPS養成週末講座第4クール HPS養成講座第15クール修了 18名のHPSが誕生 日本生まれのHPSは213名に！

2020
Vol.14
June

新型コロナウイルスの影響により修了が延期になっていた2019年度HPS養成週末講座第4クール（2019年4月開講）とHPS養成講座（2019年10月開講）を5月に無事修了することができました。暗いニュースが続いていた中で新たに18名の修了生を仲間を迎えることができた喜びを感じています！



15クール修了生 一言コメント

●阿部 香寿子

所属先：岐阜大学医学部附属病院

私のHPSとしての抱負は、「子どもが子どもらしく過ごすことができ、子どもにとってやさしい医療環境を作る」ことです。遊びが常にある環境を整え、遊びを通して子どもを支えるという専門性を発揮し、HPSを含めた新しい小児医療チームが構築できるよう取り組みたいと考えています。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

●天野 祐加

所属先：医療法人社団こどもクリニック中山医院

私は6月から病児保育室の担当をしています。体調が悪く心細い子どもや子どもの体調が悪くても仕事へ行かなくてはならない親の気持ちを理解し気持ちに寄り添えるよう努力したいです。病児が体調に合わせ自由で選択肢のある遊びを通して癒され、お迎えを待つ時間が苦痛やストレスのない時間であるよう工夫していきたいです。

●色川 真幸

所属先：就職活動中

はじめまして。15クール修了生の色川真幸（いわく まさゆき）と申します。これまで看護師として子どもにやさしい医療を目指しておりました。講座や実習、多職種研究会で、先生方やHPSの先輩方、何より子どもたちから遊びの力を学ばせて頂きました。未熟な私ですが、HPSとして子どもたちに生きる希望を伝えられるよう努力致します。どうぞよろしくお願い致します。

●植松 佳子

所属先：小豆島中央病院

総合病院で、主に小児科の患者さんと保護者の心理面の支援をしています。医療との出会いである地域の病院で、「気持ちを聴いてくれたから、がんばれた」と子ども達が感じられるように、病院にいても「あー、おもしろかった」感じられる瞬間があるように、遊びと想像力を使って、安心と楽しさがある医療環境作りに努めたいと思っています。

●岡田 浩江

所属先：東大寺福祉療育病院

私は重症心身障害児（者）の入所施設に勤務しています。HPS養成講座で学んだことで、私自身が「利用者に寄り添うこと」を再度深く考え直す機会になりました。利用者の思い、医療ケアを受けることに対する苦痛、楽しみや安らぎの表現をしっかりとくみ取り、「遊び」を通して利用者の視点にたった支援をしていきたいと思っています。

●加藤 弘子

所属先：兵庫県立こども病院

私は入院生活を余儀なくされている子ども達とその家族に寄り添っていきたくと思っています。気力や体力が落ちている中ででも前向きな気持ちを高められるように、状況に応じた遊びで働きかけができるHPSを目指します。初めての病棟勤務ですが講座での学びを糧に、一つずつ丁寧に進めていこうと考えています。

●谷脇 加奈

この度HPS養成講座を修了することができました。松平先生、講師の皆様、事務局の皆様、先輩方、15クール生、皆様に大変感謝しております。知識も技術もまだまだ未熟で無力ではありますが、尊敬する先輩のようになれるよう、邁進して参ります。

●堀内 朱夏

所属先：総合病院 釧路赤十字病院

私は総合病院の小児病棟に勤務しています。現在、講座の学びやHPSという仕事を知ってもらうことから始めている日々です。そんな中でも、1人1人の子どもたちとの関わりや子どもたちの気持ちを大切にHPSとしてできることを考えながら働く努力をしています。遊びの力を活かし、子どもにとって優しい医療へ繋がるよう、自分にできることから焦らず頑張りたいです。

●石井 由紀子

所属先：はる訪問看護ステーション

小児専門の訪問看護ステーションで非常勤で働いています。すべての子どもたちに遊びは必要で大切だということを伝えていけるように頑張りたいと思います。医療的ケア児やきょうだいと接する機会も多いので一緒に楽しい時間を作っていきたいと思います。

●浦上 杏子

所属先：日本大学医学部附属板橋病院

講義・実習を経て、遊びの大切さを学ぶことができました。どんな状況下でも遊べるように環境を整えていきます。子どもたちのみている世界を共有して、ニーズを捉えていきたいです。そして病院から生まれるトラウマ体験を減らしていけるように尽力していきたいと思います。病気・入院生活が人生の糧となるような経験になるように介入していきたいです。

●岡田 真帆

所属先：静岡県立こども病院

NICUに入院している子どもにも、日常に遊びがあり子どもらしく生活できるような環境を提供していきます。そして、家族と医師・看護師などの多職種が子どもの成長を共有していくことができるツールを作成し運用を始めます。子どもと家族のために学んだことを実践できるよう、挑戦する力を十分に発揮して頑張ります。

●上西 育子

所属先：岡崎市民病院 小児科病棟

幼稚園教諭、病児の母親、看護師という様々な経験から子どもと医療について考え続け、HPSに辿り着きました。

子どもたちが医療体験を肯定的に捉えることができるように遊びを用いた支援を考えるとともに、チャイルドフレンドリーな療養環境作りに貢献できるように日々奮闘中です！

●河村 麻央

所属先：東京リハビリ訪問看護ステーションEastサテライト江戸川

現在、訪問看護ステーションで働いています。在宅では、じっくりと、継続して子ども達とその家族に向き合うことができます。日々子ども達の成長を感じながら、私自身もHPSとして成長させてもらっています。子どもを取り巻く全ての人・環境がチャイルドフレンドリーになるように、これからも活動していきたいです。

●神野 潤

所属先：未定

HPS週末講座の第4クールを卒業した神野です。これまでの講義で学んだことや実習や仕事先で先輩HPSから学ばせていただいたことを活かして活動していきたいと思います。よろしくお願いします。

●中村 彩乃

所属先：岐阜県立看護大学育成期看護学領域

ついに岐阜にもHPSが誕生しました！ HPSマインドの普及していない岐阜県において、学生の中から、チャイルドフレンドリーな環境とはということを考え、現場に出ることの意義は大きいと思います。「子どもの気持ちを考えて当たり前。さあ、何して遊ぼうか。」と自然と感じてくれる若手を輩出していきたいと考えています。

●原山 千咲

所属先：土屋小児病院

「子どもからの発信をキャッチ」できるよう、行動や発言を良く観察することを大切にしています。子どもたちの「いっぱい遊んでくれてありがとう」の言葉は、周囲にHPSの活動を知って貰えるきっかけにもなりました。養成講座の受講中、沢山の方に支えられたことを忘れず、子どもの命を輝かせることのできるHPSを目指します。

●福井 なつみ

所属先：名古屋記念病院

沢山の方の協力や支援のおかげでHPSの資格を得ることができました。HPS養成講座で得た学びを基に、これから子供たちと関わる中で、様々なことを学び経験して、成長していけたらと思います。子どもたちに関わる全ての環境が少しでもチャイルドフレンドリーなものとなるよう、活動していきたいと思います。

●森田 友梨奈

所属先：(小規模認可保育園)モコ草薺保育園

保育園という集団生活の場における、子どもにとっての遊びの大切さや、保健・衛生面への身近な取り組みを中心に活動を始めています。又、今年度は遊びや健康を題材に月に一度の職員研修にも力を入れています。今後は養成講座での学びを大切にしながら地域にも目を向けて、より広い視野を持って子ども支援を充実させたいです。



週末4クールと15クールの合同講義



第8回日本小児多職種研究会での実践ワークショップでClaire先生と一緒に講師を務めました。
養成講座の課題で開発したホスピタル・プレイ・ツールを紹介しました。

英国研修報告

2019年9月7日～18日にHPS6名が英国・ノッティンガムこども病院、バーミンガムこども病院、グレートオーモンドストリート病院の3施設で6名のHPSが研修を行ないました。研修に参加したHPSのうち4名からのコメントを紹介します。

病院なのに楽しいと思うような環境に私の心も和らぎ、病院全体で子どもにとって優しい医療になるように考えていることを肌で感じました。こうして日本よりもはるかに子ども中心の実践が進んでいる英国ですが、プレイ・スペシャリストはその役割をアピールする掲示物で、今なお他職種に働きかけ続けていました。伝え続けていく努力の大切さを改めて感じた研修でした。（千葉市立海浜病院・米中智子）



英国では3病院で多くのHPSの話を聞き、HPSの子どもたちへの接し方を学びました。一人一人の子どもに合わせたHPSの丁寧な関わりが印象的でした。入院環境面での日本との違いには大きく驚くことばかりでした。そんな中でも、工夫次第で取り入れられる楽しい活動がいくつもあり、毎日が新鮮で学ぶべきことが多かったです。（静岡県立こども病院・杉山全美）

研修で印象深かったのはランチの時間のできごとです。一歳半の男児がサンドイッチを食べていました。手や口の周りにはべたべた。床は落としたパンやパンくずだらけ。満面の笑顔でおいしそうにサンドイッチを食べる男児に日常の輝きを感じました。決して手を出さず、子どもの意思を尊重し笑顔で見守るスタッフ。“子ども主体”それが治療場面の随所に見られました。英国の小児病棟は家庭的な雰囲気笑顔と温かさに感動を覚えました。（群馬大学医学部附属病院・山田治美）



子どもや家族、スタッフの明るい笑顔が印象的でした。子ども達が“自分は大切にされている”との思いが持てるように、子ども目線や個に応じた関わり、多職種連携、病院を離れてからも切れ目のない支援など、本当に沢山の事を教えて頂きました。子どもが自己肯定感を持ち前向きに捉えられよう、支援に生かしていきたいです。（静岡済生会総合病院・望月ます美）

英国研修の様子は2020年2月1日～2日開催の第8回日本小児診療多職種研究会で報告しました。



活動報告

HPS養成講座や活動報告の詳細はブログやFacebookにも掲載しています♪ぜひチェックしてくださいね！

- 2019年8月9日 ホスピタルプレイ講座in新潟
- 2019年8月11日 ホスピタルプレイ講座in福岡
- 2019年9月7日～18日 英国研修
- 2019年9月12日 ホスピタルプレイ講座in岡山
- 2019年10月5日（大阪） HPSフォローアップ講座
- 2019年10月6日（大阪）13日（静岡）上級HPS講座
- 2019年10月23日～ HPS養成講座 第15クール開講
- 2019年11月14日～15日 『international conference on child adoption & trauma informed care』特別講演および発表（松平千佳）
- 2019年12月1日 ホスピタルプレイ講座in福井
- 2020年1月31日 第8回HPSスキルアップ講座
- 2020年2月1日～2日 第8回日本小児診療多職種研究会
- 2020年2月1日 松平千佳著「遊びに生きる子どもたち ハイリスク児にも遊びを」（金木犀舎）発刊
- 2020年6月2日（日） HPSオンライン講座

▼ブログはこちら



お知らせ

▼HPS Japan公式ライン始めました！

ホスピタルプレイに関するシンポジウムやセミナーのご案内、HPSが実践する遊び支援方法の紹介などをお送りします。みなさんと公式ラインでもつながれたら嬉しいです。

ぜひ登録をお願いします！

HPS Japan 公式アカウント



ID @900rqftm

LINEの友達追加からID検索またはQRをスキャンして登録してください。



HPS修了生会員の方には会員限定のLINEオープンチャットルームがあります。修了年度（クール）やブロックを超えたつながりができたり、オンライン講座の開催もあります。加入希望のHPSの方はNPO事務局までご連絡ください！

▼今年度のシンポジウムについて

毎年1月末ごろに開催していましたがHPSシンポジウムはコロナの影響を考慮し、オンラインでの開催を検討しています。詳細はホームページやブログ、HPS Japan公式ラインでもお知らせします。

HPS Japan Shopからのご案内

▼HPS Japan Shop



▼木製メディカルキットに新作追加！

新しく車イスとレントゲンが加わりました。
（製造：株式会社ウッディジョー）



木製メディカルキット3個購入の方にキワニス協会公認のミニキワニスドールをもちろん1体プレゼント！

▼病児・障がい児・被虐待児に かかわるすべての大人必読の書！

松平千佳著「遊びに生きる子どもたち ハイリスク児にもっと遊びを（金木犀舎）」発刊！

遊びに生きる
子どもたち
ハイリスク児にもっと遊びを

松平千佳 Chika Matsudaira

Hospital Play
病児や障がい児、被虐待児も
「遊ぶ」ことで学び、癒され、
成長してゆく 11名の子どもたちの
実例を紹介
Play therapy

「さあ、あそぼう！」

そう声を掛けると、四肢が動かせず呼吸器をつけた難病の子どもでも目を輝かせます。病児や障がい児、被虐待児などのハイリスク児は、「遊びどころではない」と大人が決めつけてしまいがちですが、子どもたちは「遊ぶ」ことで世界とつながり、命を輝かせるのです。

病棟などで主に働く「遊びの専門家」HPSの育成に取り組む第一人者・松平千佳の実践から、子どもの生きる喜び、成長について考えさせられる書。

NPO法人ホスピタル・プレイ協会

すべての子どもの遊びと支援を考える会

〒453-0041 名古屋市中村区本陣通5-6-1

地域資源長屋なかむら1階

TEL 090-1822-3452 (10時～16時)

Mai info@hps-japan.net

事務局 南伸予 菊山晃子

HPS Japan 静岡県立大学短期大学部

〒422-8021 静岡市駿河区小鹿2-2-1

TEL 054-202-2652 (月～木10時～16時)

Mail hps-japan@u-shizuoka-ken.ac.jp

事務局 大長友妃子 稲川靖代